

令和6年度 農福連携推進研修会開催要領

(岐阜県委託事業)

1 開催趣旨

農福連携は、障がい者等の農業分野での就労を通じて、農業サイドの課題である農業従事者の高齢化や担い手不足、福祉サイドの課題である就労先の確保や工賃向上という双方の課題解決に寄与するとともに、障がい者等の社会参加を推進する取り組みである。

今回の農福連携推進研修会では、農作業を委託した農業者と農作業を受託した福祉事業所の双方から、農作業の受委託の実際の報告を受けて、施設外就労を受託するまでの検討やその成果等について報告を受ける。また、障害福祉課から報酬算定基準等について、農福連携推進センターから助成制度と農業参入について行政説明を行い、福祉事業所の今後の農業参入や受託の取組に資する。

2 主 催 岐阜県

一般社団法人岐阜県農畜産公社(ぎふ農福連携推進センター)

3 期 日 令和6年12月19日(木) 13時30分～15時40分

4 会 場 岐阜県図書館多目的小ホール

〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐4丁目2-1 Tel.058-275-5111

5 研修内容

(1) パネルディスカッション 「農作業を委託・受託した成果と課題」 (13:35～15:05)

報告者：委託者 in Box 今井 健人氏(いまい たけひと)
報告者：委託者 めぐみの農業協同組合
みのかも営農経済センター 笹原 幸司氏
報告者：受託者 社会福祉法人 可児市社会福祉協議会
ふれあいの里可児施設長 竹内 真人氏
コーディネーター岐阜県農業ジョブコーチ 遠山 敬司氏
(35分) 発表を踏まえて、質疑・意見交換

◎今井 健人氏 (イマイ タケヒト)

経歴： 1984年(昭和59年)生まれの3児の父。

名古屋大学理学部数理学科卒業後、僧侶を6年、公務員を8年務めた後、2年間の独学による農業修行を経て、2022年(令和4年)に岐阜県八百津町にてサツマイモ栽培で就農をする。

- ・令和4年7月 可茂農林事務所に対して、加工用トマトの収穫作業の委託を希望し、マッチングにより、(社福)可児市社会福祉協議会ふれあいの里可児に作業を委託した。その後サツマイモの出荷調整作業も委託。
- ・令和5年度は、9月からサツマイモの収穫、出荷調整を委託。
- ・令和6年度も継続

◎笹原 幸司氏

めぐみの農業協同組合みのかも営農経済センター長
可茂地区農福連携会議の構成員

- ・令和5年8月から10月 栗の集荷場で選果後にサイズ別に機械から排出される栗を段ボールに10^{キロ}ずつ入れ、一杯になったら段ボールを後ろのレーン乗せる作業を委託。
委託作業を工夫や、作業環境の見直しにより成果を上げている。
- ・令和6年度も継続

◎竹内 真人 氏

社会福祉法人 可児市社会福祉協議会 ふれあいの里可児施設長
可児市内の就労継続支援B型事業所・生活介護事業所の所長

- ・令和4年7月からマッチングにより今井氏から加工用トマトの収穫とサトイモの出荷調整を受託。
令和5年度は今井氏からサツマイモの出荷調整を受託。
- ・令和5年度 J Aめぐみの みのかも営農センターから栗の出荷業務の補助を受託
- ・令和6年度も継続

◎ 遠山 啓司 氏

岐阜県農業ジョブコーチ

元岐阜県農業改良普及指導員として従事

現在、障害者就労継続支援B型事業所の莓一笑で農業指導を担当。

休憩 5分

- (2)行政説明Ⅰ 「岐阜県の助成制度と農業参入の基礎知識」
(15:10～15:20) 説明者：ぎふ農福連携推進センター
農福連携企画課長 加留 祥行

- ・岐阜県の助成制度
- ・農業参入の基礎知識

- (3)行政説明Ⅱ 「施設外就労の算定基準の整理」
(15:20～15:35) 説明者：施設外就労の報酬算定基準の整理
岐阜県障害福祉課
事業所指導係 課長補佐兼係長 若原 豊氏

- ・福祉事業所が施設外就労の人員基準、時間数、作業方法、必要となる計画、実施報告等について再度確認する。
- ・委託者等は、施設外就労に関して制度を理解する。

- 6 参加者 障がい福祉サービス事業所の役職員、特別支援学校の教職員、J A役職員、農業関係者、行政関係者等
- 7 募集定員 60名(小ホール定員 90人)
- 8 申込方法 令和6年12月12日(木)までにメールまたはFAX
- 9 その他 定員を超える場合は、申し込みは先着順